

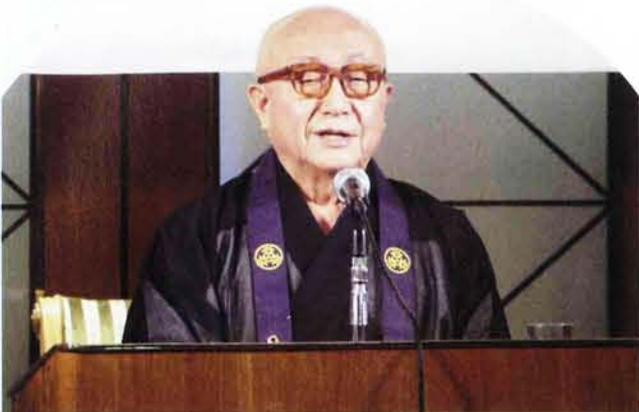
# 第四十回 高尾山慶賛会通常総会開催

去る六月十五日、第四十回高尾山慶賛会通常総会が八王子エルシイにて開催され、百名を超える方々に御参加頂きました。

総会は慶賛会々長である、大野彰氏の挨拶により開会し、議長の選出、平成二十六年年度の事業報告及び会計報告、監査報告、平成二十七年年度の事業計画及び予算案の順で議事が進められました。

続いて各団体に、高尾山及び高尾山慶賛会より賛助金が贈呈され、大山御貫首より謝辞が述べられました。

総会後には、講師の一龍齋貞鏡先生により講談が行われ、黒田節の由来である「母里太兵衛伝」や、吉良邸討ち入りで知られる「赤穂義士伝」等の一節が披露されました。先生の軽妙な語り口に会場は大いに沸き、皆時間を忘れ聞き入っていました。



謝辞を述べられる大山御貫首



一龍齋貞鏡先生による講談

## 慶賛会 入会のすすめ

もともと仏教語の「慶賛」とは、仏教寺院、堂塔などの新築、修繕を祝賀する意味でありますが、高尾山慶賛会は、高尾山古来から伝承された年中行事を賛助し、御本尊・飯縄大権現様を尊信し、地域社会の親睦を図ることを目的としております。

高尾山は現在ミシユラン三ツ星を頂き、『心のふるさと祈りのお山、世界に冠たる高尾の自然』と称せられ、多くの参拝者が来られています。

ぜひとも茲に広く高尾山慶賛会員を募り、ご加入ご協賛を頂き、ご本尊様の威神力に浴されますよう念願するものであります。

年会費 一口五千円

詳細は高尾山慶賛会事務局にご連絡下さい。  
〇四二一六六一一一一五



侍衣装を着た慶賛会の皆様

## 修験道にふれる 14

修験課 桑澤 俊宏

### 《修験道十二道具 並びに十六道具》

#### 柴打

柴打とは山中で用いる刀を指します。由来は聖宝理源大師が時の天皇、宇多天皇より賜った刀を、山中にて使用した事が始まりとされています。聖宝理源大師とは醍醐寺の開祖であり、また真言宗において大きな功績（真言宗小野法流の基礎を築くなど）を残した高僧であります。特に修験道において役行者が大峰山中で修行して以来、途絶えていた大峰山を再興し、修験道の集団を確立させ、聖宝の血脈を継承する集団を当山派修験道（真言宗系修験道）と呼び、当山派修験道の中興の祖と称されるのです。

護摩を焚く際に支具を調達するため用いたものが、この柴打(刀)であります。このほかに小木取りと云われる刀があり、これは新客（初めて修行に参加する者）が持ち、この小木取りも護摩で用いる支具を調達するためのものであります。また護摩を修する際、祇師（中央にて修法を行う者）が用いる刀もあり、これを護摩刀または宝剣と呼びます。これは不動明王の利剣を表し、悪魔を降伏させ、一切の煩惱を断ち切る作法に用いられます。その為、柴打とは支具調達や道中の妨げになるような物を断ち切るものであり、また煩惱を断ち切る利剣でもあるのです。

《山伏の秘歌》  
「また来んと 思はぬ人の 小篠原 霧よりしげき わが涙かな」

聖宝理源大師には数多くの伝説や伝承が残っており、これらは弟子たちや修験者によって伝承されていきました。その中に聖宝尊師が大峰山を再興した時の伝承があります。古来大峰山には大蛇が住むと云われ、恐れられていました。そこへ聖宝尊師が現れ、真言の法力によって大蛇を退治したと云う伝承が残っております。

その後、聖宝尊師は大峰山中で役行者の導きのもと竜樹菩薩と出会い、秘密灌頂を授かったのです。この授かった場所こそが、小篠根本道場であります。時は違えど同じ場所での法悦を肌で感じた修験者が小篠原へまた来たいと思う心を詩った秘歌であります。

富士登拝代参守のご案内  
この代参守は、高尾山から続く祈りの道を、修験者によって運ばれ、霊峰富士山頂にて法衆し、本年一年の、諸縁吉祥・諸願円満の為に、ご祈念致します。

（授与料）一体壹千円以上  
（代参守と碑伝合わせて）  
山上・御護摩受付所又は、葉書に郵便番号・住所・氏名（必ずフリガナを明記下さい。）電話番号を明記の上、左記までお申し込み下さい。

※締め切は、七月末日とし、八月以降の申し込みは、来年度分とさせていただきます

千一九三―八六八六  
八王子市高尾町二一七七  
大本山高尾山薬王院内  
富士事務局



柴燈大護摩供御壇木 特別志納のご案内

當山では毎年三月第二日曜日に、高尾山修験道による火渡り祭が、高尾山麓において盛大に執り行われます。

この勝行にあたり、ご信徒の皆様方より柴燈大護摩供にて使用される、御本尊・飯縄大権現様の功德を顕す御壇木の志納を一本一万円にて募っております。

尚、ご志納の証として御芳名を薬王院境内に一年間掲示させて頂きます。ご志納方法については詳細は、高尾山薬王院信徒課までお問い合わせ下さい。

〇四二一六六一一一一五

富士御守 代参守  
大菩薩尊 聖修験道 碑伝